日本医史学雑誌第三十九巻第二号
平成五年六月二十二日　発行

# ハーバード大学イェンチン図書館の和漢医籍

津谷喜一郎

## はじめに

欧米の研究者の書いたもので中国や日本に関するものを読んで、研究の切り口のユニークさとともに、使用した資料の豊富さに驚かされることがある。東洋へ実際に来なくて、よくあのような研究ができるものだと思っていた。筆者は、一年間ハーバード大学公衆衛生大学院武見国際保健講座へ留学する機会があり、ハーバード大学での東アジア研究の中心的存在であるイェンチン（燕京）図書館を折々使うことがあった。この図書館は東アジア関係の図書館では、東アジア以外では世界で最も大きなものの一つで医学関係も充実している。この図書館の概略と、医学関係の書籍、その利用法について紹介し、いくつかの提案を試みたい。

## 図書館の歴史

ボストンは商港として栄え、十九世紀には中国との貿易も盛んであった。この時期ハーバード大学へ中国古典学者の戈鯤化（Ko Kun hua, 一八二四―一八八二）が招かれ、北京官話を教えることになった。彼のクラスのために購入された

漢籍が、その後のハーバードの東アジア関係の図書館の中核となった。

一方、和籍は一九一四年にハーバードに招かれた中国学者の服部宇之吉（一八六七―一九三九）、仏教学者の姉崎正治（一八七三―一九五〇）が帰国の際残していった書籍が始まりとなった。

当時のハーバード大学図書館長で歴史学者のA・C・クーリッジ（Archibald Cary Coolidge, 一八六六―一九二八）が、一九二七年に中国浙江省寧波に生まれ武昌で図書館学を学び、その後厦門（アモイ）大学図書館長、次いでニューヨークで図書館学をさらに学んでいた、裘開明（Alfred Kai-ming Chiu, 一八九八―一九七七）を招聘し、漢籍・和籍の整理を任せた。厦門は当時日本の影響が強く、裘氏は日本語にも通じていた。翌一九二八年にハーバード燕京学社（Harvard-Yenching Institute）が設立され、裘氏はその「漢和図書館」の初代館長となり、戦前・戦後を通じて約四十年間、一九六四年までその職にあたり、就任期間中に当初の七千冊のコレクションは四十万冊をこえた。彼は中国の四庫分類法を取り入れた「漢和図書分類法」（通称 Yenching Classification）を考案し、これが現在でも使われている。一九六五年からは呉文津（Eugene Wu, 一九二二―）が館務を引継いでいる。一九七七年に財政難から図書館は学社所属からカレッジ図書館の一部となった。

和籍に関しては、一九五九年から一九六七年まで磯部重治氏（一九二一―）が担当されていた。磯部氏は退職後、東京慈恵会医科大学、東京大学文学部、引き続いて新潟県大和町にある国際大学に勤務されていた。一九六八年からは青木利行氏（一九三五―）が和籍を担当されている。青木氏はすでに二三年間このポジションにある。青木氏は最近エリック・ハンター（Eric J. Hunter）著“Computerized Cataloguing”（Clive Bingley, London, 1985）を、『インテリジェント図書館―消えゆくカード目録』（雄松堂、一九八八）として訳出されている。

ハーバードにはHOLLIS（Harvard Online Library Information System）というコンピュータを用いた図書検索システムがあり、ハーバード大学にある約百のほとんどの図書館を結び非常に便利なものである。ただし一九八五年以後に収納された本が中心である。それ以前のものは遡って入力中とのことであるが時間がかかろう。一九八四年以前に収納さ

れたものでこのシステムに入っているものはまだ少ないので、次の章で紹介するカードを製本化した目録を利用することになる。このシステムは筆者にとっては、ある分野で一体どんな本が欧米を中心にして発行されているのかを、キーワードや著者名などを手がかりに探す時に非常に効率的であった。オンライン公衆アクセス目録（Online Public Access Catalog : OPAC）として現在日本からもアクセス可能である。また、一九八九年からは、OCLC・CJKシステムとして漢字・日本語・ハングル語が入力開始されている。

## 蔵書と利用法

ハーバード大学はその全蔵書数一一五〇万冊を誇る。大学の図書館としては世界最大である。日本の国立国会図書館（五五〇万冊）の二倍という驚くべき数字である。燕京図書館の蔵書は現在、漢籍四三万冊、和籍二〇万冊、韓籍七万冊、さらにベトナム語・満州語・チベット語等が加わり、ワシントン・D・C・のアメリカ議会図書館（Library of Congress : LC）に次ぐ規模の東アジア研究図書館である。

漢籍では、経時的なスケールでいうと、例えば六〇一年に編纂された中国最古の韻文経典の『広韻』の宋版（一二世紀）、元版（一三三〇年と一三三六年）、明版（一五四九年）、さらにその後の多くの版がある。また近代中国に関するものも豊富で、文化大革命中の紅衛兵グループによる新聞が七〇〇種もある。また分野別の特色のあるものとして、戯曲と小説・皇室記録・地方誌・伝記・社会科学の蔵書に定評がある。

和籍では、日本文学・日本史・政治・経済さらに台湾や朝鮮の総督府が発行した資料がよく揃っている。

目録・カードは、漢籍はウェード式のローマ字、和籍はヘボン式のローマ字となっている。なおこのカード十八枚をまとめて一頁に縮小コピーして製本したものが“Catalogues of the Harvard-Yenching Library - Chinese Catalogue”として、漢籍について一九八四年から一九八六年にかけて全三九巻として発行されている(Garland Publication, Inc., New

York and London)。第一巻〜第二八巻が著者・書名別、二九巻〜三八巻がアルファベット順の項目（subject）別になっている。第三九巻は雑誌目録である。

和籍についても一九八五年から八六年にかけて“Catalogues of the Harvard-Yenching Library-Japanese Catalogue”として全三三巻として発行され、第一巻〜第二二巻が著者・書名別、第二三巻〜第三二巻が項目別になっている。第三三巻は雑誌目録である。この“Chinese Catalogue”は日本の国会図書館など、“Japanese Catalogue”は早稲田大学などにもそれぞれ収蔵されている。なお漢籍・和籍とも一九八五年以後収納されたものについては先のHOLLISで検索できる。

医学書関係は項目として主に以下のものに配される。アルファベット順に、Acupuncture; Botany, Medical; Diagnosis; Drugs; Folk medicine; Materia Medica; Medical; Medicine; Medicine-China; Medicine, Chinese; Public health などである。他に眼科など各領域別の項目名もいくつかある。なおMedicine, Chineseはさらに以下に分類されている。Case Studies, Collected works; Early works to 1800（これはさらに、Huanti nei ching（黄帝内経）、Nan ching（難経）、Suwen（素問）と細分化された項目をもつ。）; Formulae, receipts, prescriptions; History である。

ただし、項目別の整理は一九六八年以後収納されたものについてのみであり、それ以前に収納されたものは著者名・書籍の目録しかなく、これについての調査には一定の時間が必要である。先の製本化されたカタログから数えてみると、医学関係でカードの数として漢籍が約一二〇〇点、和籍が約三〇〇点といったところである。ちなみに漢籍では黄帝内経は九点、難経は一九点、素問は一九点ある。和雑誌としてはどういうわけか『漢方と漢薬』誌の一九三五（昭和十）年六月号のみ入っている。これらに、一九六七年以前に収納されたものと、一九八五年以後収納されHOLLISに載っているものが加わり、全点数となるが、この方はさほどは多くないようである。

コード番号としては、RがReading室・Reference室、FがMicrofilm、TがTreasure(貴重書)、BがBibliography(書誌学)、といったところである。漢籍では清代の一七九五年以前のもの、和籍では江戸期時代以前のものが一律に貴

重書扱いとなって善本（rare book）書室に入っている。善本書室主任は戴廉（Sidney L. Tai, 一九二一―）氏である。

例えば漢籍の目録の Medicine の項をみてみると、

陳文中（字文秀）撰、熊宗立（号道軒）類正・（陳氏）小児病源方論・四巻・明正徳戊辰（一五〇八）、書林存徳堂陳氏刊本・一三行二七字・一冊、一函。

王璽（字延信）撰、醫林類證集要、十巻存四至六巻、明成化壬寅（一四八二）、春徳堂刊本・一一行二〇或二一字不等、六冊、一函。

などが特に稀覯書といえる。

和籍担当司書には先の青木氏の他に日本人の目録係が二人おり、さらに漢籍担当司書の中には日本語を解する中国系の方も何人かおられる。

漢籍担当の胡嘉陽（Hu Chia-yaung, 一九四一―）女史によれば、現在、漢籍の購入選択にあたっては、中国で出版された西洋医学の本については購入しないが、中医学の本については中国文化の一部として購入しているとのことである。日本には中国図書の取り次ぎ業者が何軒かあるが、アメリカにはそのようなものはなく、直接北京と香港から購入している。

## 漢字目録の必要性について

漢字文化圏のものにとってはローマ字のカード目録というのはどうしても使いづらいものである。

アメリカ議会図書館の漢籍については、一九三九年から一九四五年にかけてこの図書館に在籍した（その後中国へ帰る）王重民（Wang Chung-min）によって書誌学的調査がなされ、その後、袁同礼（T. L. Yuan）の重校を経て、『國會圖書館蔵中國善本書録』（A Descripive Cataloge of Rare Chinese Books in the Library of Congress）として、四庫分類に従い、

漢字の手書きのものが一九五七年に全二巻として出版されており、一七七七点を含み、そのうち医学関係が補遺も入れて八三点含まれる。

メリーランド州ベセスダ市にある国立医学図書館（National Library of Medicine : MLM）の漢籍・和籍は、中国中医研究院医史文献研究所の馬継興氏により調査され、ローマ字のアルファベット順の書名・著編者名（ウェード式）と項目別のカード、さらに、漢字の画数順の書名のカードが揃っている。この漢字カードは書名・著編者名・巻数だけの簡単なものだが、漢字文化圏のものにとっては使いやすい。ただ残念なことに、カードのみで冊子体とはなっていない。ローマ字の方はオンライン検索できる。

ハーバード大学のカウントウェイ医学図書館（Countway Medical Library）の五階の貴重書（rare book）室にも数百冊の漢籍・和籍があるが、全く整理されおらず、目録もない。

このようにアメリカの図書館にある漢籍・和籍の状況は、全く整理されていないものから、コンピュータ化されているもの、漢字による冊子体の目録があるものまで様々である。医学関係の蔵書についても如りである。このうち医史学の対象となる中国では中華民国時代まで、日本では明治時代あたりまでは、いくつかの重点的な図書館から、漢字で目録が整理され利用が容易な形で提供されると、漢字文化圏の医史学の研究者にとっては大変有意義なものとなろう。

なお、韓籍については、全領域をカバーしたものとして、“A Classified Catalogue of Korean Books in the Harvard Yenching Institute Library at Harvard University”（『哈佛大學哈燕學社圖書館韓籍簡目』）が、漢字とハングル文字交りの目録として一九六二年に刊行され、その後、“A Classified Catalogue of Korean Books in the Harvard - Yenching Library, Harvard University Vol. II”と同“Vol. III”（『哈佛大學哈佛燕京圖書館韓籍簡目二編』、『同三編』）が一九六六年と一九八〇年に、出版されている。ただし、第四編はあと十年程たってから出るとのことである。

協力を得た、燕京図書館・青木利行、同・戴廉、北里研究所附属東洋医学総合研究所医史文献研究室・真柳誠の三氏に謝意を表する。

## 参考文献

(一) Elisseeff, S.: The Chinese - Japanese Library of the Harvard - Yenching Institute at Harvard University, Offprint from Harvard Library Bulletin, 10(1): 73-93, 1956.（東京大学東洋文化研究所図書館所蔵の別刷には、Corrigenda と論文中の用語に対する漢字の対応表がついている）

(二) "Harvard-Yenching Library"（Cambridge, Massachusetts）（発行年は明らかではないが一九七〇年代前半と思われる）［藤原貞雄訳「アメリカにおける東アジア研究―「ハーバードの東アジア図書館」『アジアレビュー』一九七八年春号、一五六～一六三頁］

(三) 頼永祥「ハーヴァード・燕京図書館」『図書館雑誌』七七巻一号、一二～一三頁、一九八三。

(四) 豊田恭子「ハーバード・燕京図書館」『ウイークリー出版情報』八巻四四号、三八～三九頁、一九八九。

（東京医科歯科大学難治疾患研究所／北里研究所附属東洋医学総合研究所）